

平成23年度事業報告書

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

財団法人 能村膜構造技術振興財団

事業の状況

1. 平成23年度は助成金交付対象を応用・開発的テーマに対して重点的に行うために、推薦者であります当財団の役員、評議員、選考委員に対して募集要項を送りました。
その結果、12件の応募があり、平成23年11月17日に寄附行為及び選考委員会規定に則り、選考委員会が開催され、慎重且つ、十分な議論の上、9件1100万円が助成対象として選考されました。
なお、平成24年2月3日～2月15日に助成交付対象者に、助成金交付書の授与を行い、事業年度内にすべての助成金支給を完了いたしました。

記

- (1) 弾性波を利用した膜面のリンクル同定手法に関する研究
東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 准教授
横関 智弘 110万円
- (2) 高い抗ウイルス・抗菌機能を持つ膜材料の開発
東京工業大学大学院 理工学研究科 材料工学専攻 准教授
宮内 雅浩 150万円
- (3) 炭素繊維及び粘土鉱物を用いた建築用コンポジット膜の創製
独立行政法人産業技術総合研究所 コンパクト化学システム研究センター
主任研究員
石井 亮 150万円
- (4) リビルト構法によるテンセグリック式張力膜構造の開発
ソウル市立大学校 建築学部 客員教授
李 珠娜 150万円

- (5) 竹と膜をハイブリッドに用いたドーム構造の研究開発
滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 教授
陶器 浩一 120万円
- (6) インテリア素材としての「動く膜」の開発・研究
京都工芸繊維大学大学院 デザイン経営工学部門 准教授
城戸崎 和佐 100万円
- (7) 快適な屋外放射空間を創り出すための膜構造を用いた
日射遮蔽物の形状最適化アルゴリズムの構築
佐賀大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 講師
中大窪 千晶 100万円
- (8) 映像を浮遊させることを目的とした小型飛行船の膜構造材料研究
筑波大学 技術専門職員
林 剛人丸 100万円
- (9) 硬質な素材による小部材が連なることによって膜の性状を示す
2次元材料を用いた建築形態
日本大学 理工学部 建築学科 教授
横河 健 120万円

2. 東日本大震災において被災された研究機関では膜構造技術に関する研究開発をするというより、それ以前の基礎的な研究資材が被災している状況のため、昨年度研究助成を行った東北大学に対し、被災されたことに対して研究助成の枠組みを拡大して100万円の寄付を行いました。(平成23年6月17日開催の理事会・評議員会にて承認)

3. その他、前条の目的を達成するために必要な事業は特にありません。

平成23年度事業報告の内容を正しく示しているものと認めます。

平成 24年 5月 16日

監 事 鷺 尾 久 太 加

